

『歓待』『ほとりの朔子』『さようなら』世界が注目する気鋭監督・深田晃司最新作

# 浅野忠信主演映画『淵に立つ』(英題:HARMONIUM)

## 第69回カンヌ国際映画祭「ある視点」部門出品決定

### 浅野主演映画、2年連続同部門に選出！



メ〜テレ(名古屋テレビ放送)が製作・幹事を務める映画『淵に立つ』(英題:HARMONIUM/今秋、有楽町スバル座ほか、イオンシネマをはじめ全国公開)が、第69回カンヌ国際映画祭の「ある視点」部門に正式出品されることが決定。昨年の第68回カンヌ国際映画祭「ある視点」部門で日本人初の監督賞を受賞した『岸辺の旅』(黒沢清監督)で、深津絵里とともに主演をつとめた浅野忠信は、2年連続で同部門に主演作が選出されたこととなる。

監督は、世界の映画祭で数々の受賞歴を誇る『歓待』、二階堂ふみ主演『ほとりの朔子』(ナント三大大陸映画祭クランプリ)、平田オリザの戯曲映画化『さようなら』(東京国際映画祭コンペ出品)など、36歳にして次々と話題作を世に出し続ける深田晃司。世界的に評価の高い黒沢清、河瀬直美、是枝裕和、三池崇史監督に次ぐ、新しい世代の監督として世界中から注目を集めている。

本作は、下町で金属加工業を営む夫婦(古館寛治、筒井真理子)のもとに突然一人の男(浅野忠信)が現れ、奇妙な共同生活が始まり、一見平和だった家族に“異物”が混入することで夫婦それぞれが抱える秘密があぶり出されていく人間ドラマ。夫婦とは、家族とは、愛とは、人間とは何か、普遍的なテーマを問いかけながら、人間の心の奥底を揺さぶる衝撃作。

主演をつとめるのは、国内外で評価の高い『私の男』『岸辺の旅』や、マーティン・スコセッシ監督『沈黙 Silence』出演など国際的にも活躍する浅野忠信、『歓待』『ほとりの朔子』に続き深田組常連の古館寛治、映画・テレビ、舞台と幅広く活躍する筒井真理子。浅野は、深田晃司監督との初のコラボレーションで、静かなる狂気を秘めた異質な男を熱演し、新境地をみせている。

本作の製作布陣は、カンヌ国際映画祭で「ある視点」部門オープニング作品に選ばれ、日本国内約150館で上映、世界45カ国で上映された河瀬直美監督作『あん』の主要メンバーによる製作チームで、フランス(COMME DES CINEMA)との共同制作が行われた。メ〜テレ製作・幹事作品としては、『あん』に続き2年連続のカンヌ国際映画祭出品となる。

また、本作は、深田監督自ら執筆した脚本を小説化、ポプラ社より秋頃に刊行予定。日本公開は、2016年秋、有楽町スバル座ほか、イオンシネマをはじめ全国ロードショーとなる。

2016年4月15日(金)

◆監督:深田晃司 コメント

「選出の知らせに驚いています。『淵に立つ』は10年近く温めていた企画で、それが無事完成しただけでも幸運なのに、こうして最高の形で世界に届けられることを嬉しく思います。素晴らしいキャストとスタッフの総力に押し上げられた結果です。感謝しかありません。」

監督プロフィール:

1980年生まれ、東京都出身。映画美学校監督コース修了後、2005年、平田オリザ主宰の劇団青年団に演出部として入団。2006年発表の中編『ざくろ屋敷』にてパリ第3回 KINOTYO 映画祭ソレイユドール新人賞を受賞。2008年『東京人間喜劇』がローマ国際映画祭、パリシネマ国際映画祭選出。大阪シネドライブ大賞受賞。2010年『歓待』にて東京国際映画祭日本映画「ある視点」部門作品賞、プチョン国際映画祭最優秀アジア映画賞(NETPAC 賞)を受賞。2013年『ほとりの朔子』がナント三大陸映画祭グランプリ&ヤング審査員賞をダブル受賞、タリンブラックナイト国際映画祭監督賞受賞。2015年『さようなら』が東京国際映画祭コンペティション部門出品。本作で長編5作目となる。

脚本・監督:深田晃司

出演:浅野忠信、古舘寛治、筒井真理子、太賀、三浦貴大、篠川桃音、真広佳奈

プロデューサー:新村裕、澤田正道

エグゼクティブプロデューサー:福嶋更一郎、大山義人

制作プロデューサー:戸山剛

企画プロデューサー:米満一正

ラインプロデューサー:南陽

制作プロダクション:マウンテンゲートプロダクション

配給:エレファントハウス

英語題:HARMONIUM /2016年/日本・フランス/日本語

(C)2016映画「淵に立つ」製作委員会/COMME DES CINEMAS

公式サイト:<http://fuchi-movie.com/>

『淵に立つ』今秋、有楽町スバル座ほか、イオンシネマをはじめ全国ロードショー

以上